



平川 啓太

2021年入庁

市民環境部

保険年金課

Q 1. 志望動機は？

大学生のとき、地方創生について学び、市町村の合併について調査をしました。宇陀市は、平成18年に4つの町、村が合併して誕生した奈良県で一番新しい市です。それが宇陀市を知るきっかけでした。調査のため自ら宇陀市に赴き、地方が生き残る難しさを目の当たりにしました。自分自身の力だけでその現状を打開するのは極めて困難ですが、市の職員として働き、市の実情を知っていくことから始め、市全体で課題を乗り越えたいと思い、宇陀市の受験を志望しました。

Q 2. 担当業務は？

後期高齢者医療制度の担当として、賦課徴収に取り組んでいます。賦課とは、被保険者の所得に基づき、保険料を決定することです。徴収とは、決定した保険料を納付していただき、そのお金を正しく管理することです。計算や管理は機械がやってくれますが、それが本当に正しいかどうかは、人の目で精査しなければなりません。人のお金を扱う仕事なので、正確性が求められます。被保険者の方が納付する方法は様々なので（金融機関、コンビニ、口座振替、年金天引き）それぞれ正しく管理しなくてはなりません。1円でも合わない、大変なことになってしまいます。

他には、給付申請書の受付をしています。給付は種類が複数あるので、それぞれ内容や給付時期、金額などを窓口で回答しています。そして、申請書の内容を確認して、各機関へ送付します。

Q 3. やりがいについて

高齢者の方へ制度のことを説明する際には、重要なことを丁寧に伝え、まわりくどい言い方にならないように注意しています。そういった心がけを持って対応をすると、お礼を言われることがあります。「よく分かりました。」などと言ってもらえた時は、とてもやりがいを感じます。自分では大したことはしていないつもりですが、認められた気がして、もっと人のためになることをしようと思うようになります。

窓口で対応する課に配属されたら、住民の方と一番近い距離で接することができます。直接お話を聞けるというのは貴重なことです。意見を仕事に反映させ、少しでも分かりやすい制度になるように頑張っています。

Q 4. 市職員のイメージは？

必ず言われるお堅いイメージ。あると言えばありますが、思っていたほどお堅くはありません。私が入庁前にイメージしていたのは、服装や口調などがビシッとしているというものでした。しかし、実際はすごく自由です。服装に関しては、清潔感や節度を持った範囲の中ですが、それにしても自由があるなと思いました。驚いたのは、言葉遣いです。礼儀や丁寧さがある前提の中で、市民の方との接し方に距離の近さがあるんです。私は兵庫県で生まれ育ったので、もちろん関西弁で話しますが、宇陀市（奈良県の中で違いがあるか分からないけど）の関西弁は、私が話すものとは少し違います。そこに距離の近さを感じたのかもしれない。今では、私も立派に宇陀弁を使いこなして窓口対応をしています。

Q 5. 受験者に向けて

筆記試験は、今まで自分が積み重ねたチカラがそのまま成果として出る試験です。やった分だけ点数に繋がると思えば、自信にも繋がるでしょう。それに、これまでの人生で筆記試験なんて何度も受けてきたはず。緊張することはありません。今まで通り臨みましょう。

面接試験などは、知識よりも人柄を見られるものだと思います。つまり、これもいつも通りが良いということです。たった数カ月で人柄は変わりませんから、いつもの自分をちゃんと見てもらおうと思って臨んでみてください。

そして最後は、縁です。テレビCMなどでも耳にしますが、宇陀市役所の職員になる縁があるかどうかです。それは努力でどうにもならないじゃん、と言えてしまいそうですが、努力や熱意が縁になるのです。

みなさんへひとこと！

市の職員として働く自分の姿をイメージしてみてください。きっとすぐ、その自分に出会えます。